

議員全員協議会

日 時	令和4年9月14日(水) 開会中	14時51分 開会 15時57分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 植田博巳 副議長 15番 村田博英	
	1番 石山和生	2番 谷口恵世 3番 絹村智昭
	4番 名波和昌	5番 加藤 彰 6番 木村正利
	7番 松下定弘	8番 種茂和男 9番 濱崎一輝
	10番 原口康之	11番 大井俊彦 12番 太田佳晴
	13番 中野康子	14番 大石和央
	15番	
欠席議員		
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平 書記 森田さおり	
説明員		
傍 聴		

署名 _____ 議長

[午後 2時51分 開会]

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

皆さん、お疲れさまでございます。今日は臨時の議員全員協議会を開催することになりました。よろしく願いいたします。

2 協議事項 (1) 学校法人榛原学園「川崎幼稚園」園児死亡事故に関し再発防止を求める要請書（案）について

○議長（植田博巳君）

本日の協議事項といたしまして、資料1に添付をさせていただいております。この内容については、学校法人榛原学園の川崎幼稚園園児死亡事故に関し再発防止の要請を市のほうに提出したいということで、昨日、議会運営委員会を開いていただきました。

その中で、提出することはいいですけれども、内容について皆さんの協議というお話があったということで、その報告を議運の委員長から少ししていただきたいなと思います。

大石議員。

○14番（大石和央君）

議長からもありましたけれども、昨日、議会運営委員会を開催いたしまして、要請書を提出したいという議長からの説明がありました。原案の原案みたいなものになってしまったんですけれども、その案を議運のメンバーで少し議論いたしまして、提出することについては同意を全員でしましたので、本日、全員協議会の中で案文、これを皆さんで議論したらどうかという結論になりまして、本日の全協という形になりました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

私のほうから昨日、議会運営委員会の開催をお願いいたしまして、市に対して市議会として要請文を出したいということで、今、委員長から報告がありましたとおりの内容でございます。

この要請文につきまして、一読させていただきますので、よろしく願いいたします。

牧之原市長、杉本基久雄様。

牧之原市議会議長、植田博巳。

学校法人榛原学園「川崎幼稚園」園児死亡事故に関し再発防止を求める要請書（案）。

令和4年9月5日に川崎幼稚園において発生した、通園バス内で園児が死亡するという痛ましい事故は、通常では考えられないミスが重なり、尊い命が奪われた絶対にあってはならない事故である。

高温の車内で亡くなられた園児の苦しみは計り知れず、ご両親ご家族の深い悲しみを思うと言葉もありません。

現在、警察の捜査、県と市の合同による特別監査が行われ、同園における管理運営体制の実態が明らかにされようとしていますが、市としても早急に市内のすべての子どもたちの安全管理体制の把握に努め、子どもたちが安心・安全に過ごすことができるよう必要な措置を講じることが不可欠である。

市議会は、このような事故が二度と起こらないよう、市に対して下記のとおり強く要請する。
記。

1、子どもたち及び保護者等の不安の解消や精神的ケアを迅速に行うとともに、在園児の今後について、保護者の意向を確認し、極力希望に添った対応をすること。また、保護者等からの相談に対し、丁寧な対応を行うこと。

2、学校法人榛原学園が運営している、静波保育園、細江保育園、子育て支援センター「みらいえ」の安全管理について、調査、検証を行うこと。また、私立、公立を問わず市内すべての幼稚園、こども園、保育園、子育て支援施設についても同様の対応をすること。

3、私立こども園で発生した事故ではあるが、市民の市に対する不信感を払拭するため、正確な情報発信を行い、信頼の回復に務めること。

以上、再発防止を求める要請書ということで、案としてつくらせていただきました。

この内容について、ご意見をお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

議長が今朗読されまして確認をしたところでございますけれども、私の考えていることなんですけれども、この要請書については内容は評価するところでございます。

ただ、今回の絶対にあってはならないこの悲惨な事件に対しては、市議会として再発防止は当然のこと、もとよりですけれども、もっと踏み込んだ指摘が必要だというふうに認識をしております。

これは、昨日うちのほうへ、ある新聞の記者から連絡があったわけですがけれども、要は、市議会の今後のこの事件に対しての動きはどうなんだというような、いろいろな話がありました。

その中で、市議会として、地方自治法に基づきます百条委員会の設置等々についてはどんな動きがあるんですかというようなことも、お話がございました。周りからは、市議会としてかなり重い動きが必要だよというような認識かなというふうに、私はそのとき思いました。

そういったことを踏まえますと、この意見書は私はこれでいいと思っています。内容的に。

ただ、意見書を出してこれで終わりということではなくして、今後、子供たちの安全確保対策について、議会として常に注視していくというようなことが必要かなというふうに私は思っております。

そうしたことが、今後の議会の対応ということの責務であるというふうに思っております。

そうしたことで、こうした要請書をぜひ出してほしいし、出した以降も、この件については議会として注視していくことが、今後の安全対策としても非常に重要であると私は思っております。一つの意見として申し上げました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ほかに何かございますか。

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

昨日の議運のほうで出された資料から比べると、こちらの文章のほうが、かなり強い口調になっているなというところで、内容的にはいいかなと思うんですけども、この中身の中で付け加えていただきたい部分を意見として言わせていただきますと、下が1、2、3あるところのですね。3番目のところですけども、「私立こども園で発生した事故ではあるが、市民の市に対する不信感を払拭するため」、ここに追加で「市にも大きな責任があることを真摯に受け止め、正確な情報発信を行い、信頼の回復に努めること」ということで、付け加えていただければと思います。

○議長（植田博巳君）

今、濱崎議員から、ここに「市議も」と。

○9番（濱崎一輝君）

市です。「市にも」。

○議長（植田博巳君）

ここのことね。

○9番（濱崎一輝君）

牧之原市。本市。

○議長（植田博巳君）

「市にも」。「市議も」と聞こえたんですけど。

○9番（濱崎一輝君）

「市にも」です。「市にも大きな責任があることを真摯に受け止め」。

今までの答弁とか、市の記者会見とかを見ていると、市はあまり責任がないというか、県に任せ切りということも問われるものですから、その辺のところを入れたほうがいいかなという。

○議長（植田博巳君）

ここの川崎幼稚園は私立の幼稚園で、こども園として県の認可ということで、市の監査とか、そういうのは入っていないというようなことでありますけれども、そういう現実を踏まえても、今言った「市にも」。

○9番（濱崎一輝君）

そこら辺はいいです。市でもいいです、市にもでもいいですけども。市にも責任があるんだ

よというところを。

○議長（植田博巳君）

そこら辺、皆さんどう思いますか。

木村議員。

○6番（木村正利君）

現実、私の近所でも、実際この親御さんだったり、通っている方がいるんですけど、私どもはマスコミの情報を頼りに家でいた関係で、現実のところ、ここの川崎幼稚園の理事長が辞任するとか、そういった形になっている中で、本当の生の声を聞くと、実際振り分けて静波保育園とか分けている状況の中で、親御さんたちに具体的に振り分けるということまでは市は把握しているんですけども、実際、夜中の10時くらいに来て、マスコミがいるからそのままそっと入ってくれとか、子供さんたちのケアが全然行き届いていないんですね。

そういう話から、いろんなことが知っている中で、私の意見的には、できればもうちょっと踏み込んだ形の中で、市として対策本部なり、そういったものを設置して、一元化したところまでのところに踏み込んだ市のほうの関与って必要じゃないかなと。今、さざんかのほうにこういう窓口を設けていると言っているんですけど、それが機能していないようなことを親御さんから聞いているんですね。

精神的なケアを含めたときに、もうちょっと踏み込んだ形で、市に対しては具体的な親御さんとか子供さんに対する対策本部という、一元化した窓口を設けて、ここの一番のところの不安解消って、まずここをやっていないと、かなりひどい状況だなというのは、私も近所の親御さんから聞いていて感じているところですから、もうちょっと踏み込んだような形の、議会としてのところができたらいいのかなと感じました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

今の木村議員のご質問ですけれども、1のところにもっと踏み込んだという話なんですけど、内容的に、そこら辺も踏み込んだであるというふうに認識しているんですけど、どういうふうに文言を直せばいいですか。

木村議員。

○6番（木村正利君）

「市としては父兄及び子供たちの川崎幼稚園の園児死亡事故に関する特別窓口の設置」ぐらいのところを要望するような形にしたほうが、いろいろなところで、市の担当者もマスコミ対応とかで困っている中で、現実、今、社会福祉法人とか、そういったものがやっているんですけど、それが全然機能していないというのは親御さんから聞いているものですから、できれば個々に直接対応できるような窓口設置というのが必要かなと感じたので、そこら辺の文言がトータルの中で、例えば「学校法人榛原学園「川崎幼稚園」園児死亡事故に関する相談窓口を設置する」とかというような形まで入れていただいて、市としても、先ほど濱崎議員がおっしゃられたような責

任という意味で、そこら辺の要望ができたらうれしいのかなど。子供さんたちとか親御さんのことを聞こえてくるお話を聞くと、それぐらいまで突っ込まないと、ちょっとなかなか難しいかなというのは私ちょっと感じているところなんですけど、そういう意味で。

○議長（植田博巳君）

木村議員がおっしゃっていることって、現実的にそうだと思いますし、そうなんでしょうけれども、1番に書いてあることは、それは網羅している形でいちお書いてあるんですけども、要請書ですので、その中の具体的な方法、手法というのは、市のほうで、こちらから口頭でも言って対応してもらおうという形でどうなのかなど。この要請文の中に具体的なそういうものを入れるとなると、それ一個じゃなくて、いろいろな方面のものについて、具体的な方法を指示するとか、要請する格好になりますので、この1番はそれを十分配慮していますけれども、一応こういう形の文面で、できたらお願いしたいなと思うんですけど、それについて皆さんいかがですか。太田議員。

○12番（太田佳晴君）

まず、今、木村議員、また濱崎議員が言われた、最初の濱崎議員のものは、ここは入れたほうが良いと思います。言われたように、市にも大きな責任があることを真摯に受け止めというのは、というのは、今、事件が起きて、事故が起きて、とんでもないずさんな危機管理体制の中でということで、今までは川崎幼稚園について、いろいろな指摘がマスコミ、また社会的にもあったものが、これからは恐らく牧之原市の責任についてかなり踏み込んだ形で指摘がされてくると思います。

そのときにやはり、今、お二人が言われたようなことを、この議会がしっかり踏まえて対応する必要があると思いますので、これはこれで、今入れてもらった文面は入れるということで出せばいいと思うんですけども、そのときに、やはりこれ、出すだけではなくて、そのときにしっかり、これに基づいて何をやるかということをして市のほうで回答してもらって、しっかり。それで、またその後、実際にそれがやったかどうかをこの議会もしっかり検証しながら、それで先ほど木村議員の言ったようなことが不足するならば、そこで改めて指摘して改善を求めるということのほうが、まずはいいかなど、そういうふうになりました。

それと、一つ文言で、2番ですけども、2行目の「「みらいえ」の安全管理について、調査、検証を行うこと」ということなんですけれども、調査の前か後ろに、もう少し強く「徹底的な」とかという言葉を入れたほうが、今回のこの事案を考えると、やはりなるべく強く議会も危機感を持っているということを伝えるほうが良いと思いますので、そこも検討をお願いします。

それと、ここには今私が言った回答とかどうするんだということをやちゃんと答えてくれというのが書いていないんですけども、その点については、議長はどのように考えていますか。

○議長（植田博巳君）

これを提出するときには、具体的にこういうことをやって、具体的な案を実施するときには議会のほうに、どういう手続、どういう手法でやったかどうかを報告してくださいとか言いたいと

思いますけれども。

○12番（太田佳晴君）

まずはこれに基づいて何をやるかということを経営をしてもらって、それに基づいてしっかりやったかということも、また改めて議会には報告を願いたいということで、議長のほうからはつきり言ってくれるということだね。

○議長（植田博巳君）

それは言わせていただきます。

それで、先ほど濱崎議員から言われた内容なんですけど、市にも大きな責任という、大きな責任の具体的なところというのは、ぼんやりというか、あるんですけど、具体的にはどういうことを考えて大きな責任と。

○9番（濱崎一輝君）

全体的に監督責任という部分で。結局、認定こども園は県の管理だよということで、ずっとそれで言い続けているんですけれども、結局市民に関しては、それは全く分からないんですよ、監督をどこでやっているかという。そうすると、市民感情を考えていくと、市民だけじゃなくて全国的に、市にも責任があるだろうということもあるので、そうじゃありませんと説明してもらって明かないものですから、ここに関しては、責任があるよということで受け止めてという、そういうニュアンス的なものです。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

今、監督責任の話があったと思うんですけど、逆に本来市がそこに対して責任がないんだったら、逆に書かないほうがいいんじゃないかという考え方もあると思うんですけど、それはどうなんですか。それは逆に認めているということに、ここに書くことによって、議会としては市が責任があるというふうに言っているということになると思うんですけど、それはどうなんですか。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

私のさっき言った市の責任ということについては、昨日も議運でも報告させてもらったんですけど、評論家の尾木ママって、あの人がかなりSNSで大きな活字で書かれていたんです。牧之原市の責任は大きいと思いますよということで、牧之原市の責任というの、かなり大きな出ているんです。

それはどういうことかといいますと、こんなひどいケースは見たことも聞いたことがないと。それで、それにおいて、園としてやらなければいけないことに配慮ができていないことが一番の問題。だから、川崎幼稚園を市とすると今までしっかり管理する責任があったよということなん

です。それは、市が指定管理を受けてもらっている。それは、基本的には川崎幼稚園の運営を評価してのことですから、そういった点において、市の大きな責任ということだと思います。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

大きな責任、尾木ママさんが言っているものをまだ確認できていないので分からないんですけども、となると、ほかの子供以外でも何かあったときは全て市の責任。ほかの事例の場合でも市の責任なるということになるんですかね。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

いろいろなケースというのは、石山議員が言うのはどういうケースかというのははっきりしないんですけど、ただ、今回はこの件に関しての責任ということで特化すればいいと思うんです。あまり拡大解釈して、こういった場合はどうだ、こういった場合じゃなくて、今回の事故に関しての要請書であるし、解釈をしていけばと私は思いますけどね。

○議長（植田博巳君）

石山委員。

○1番（石山和生君）

いずれにせよ、もうちょっと考えないと判断できない気がします。資料、今日の朝とか昨日の夜出て、今このまま、結構大きな問題だと思うので、ここで決めるということは決定しているのでしょうか。

○議長（植田博巳君）

ここで協議して決めたいというふうな意向は持っていますけれども、ここで内容について定まらなければね。できれば、今日中にいろいろな形で決めたいとは思っていますけれども。

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

あれなんですかね、もとに戻って申し訳ないんですけども、今日この資料を出すに当たって、案を出すに当たって、議会運営委員会として、ある程度方向性は決めてあるのでしょうか。それとも、ある程度結果的には議会運営委員会としてこうなただけだという形で今日、全協に諮っているのかどうか、その辺を確認したいんですけども。

○議長（植田博巳君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

先ほども言いましたけれども、議長からの要請書を出したいという、その提案がありましたので、それに基づいて、議会では確かに議論しました。

要請文について最終的には議運では決まらなかったものですから、本日の全協で議論して出す方向でいきたいと思いますというふうになったんです。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

それでは、ある程度この最終的な案は議会運営委員会としてこれで行きたいという、議運としての意思はあるわけですね。

○議長（植田博巳君）

昨日出した案は、案を基に議会運営委員会の委員の方々からの意見を反映させた中で、今日新たに1項、2項、3項という項立てした案をつくらせてもらったものを今、出させていただいたというところです。

昨日出した案はここには入っていませんけれども、それを意見をいただいた中で、再度校正した案を今日示させていただいたということです。

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

昨日出した案という、ちょっと見させてもらったときに、あれではちょっとね当然のことだよなというような内容しか載っていなかったものですから、今日の案を見ると踏み込んでいると、あれ以上に。だから安心はしたんですけれども、やっぱり議運としてのある程度方向性をもって、全協の皆さんどうですかという形にしないと、その辺が議運の機能というか、その辺が疑われてしまうなというふうに感じましたので、今質問いたしました。

○議長（植田博巳君）

それについて、議運のほうでそういう方向性を出していただいたので、今日こういうふうな開催ということです。それだけ了解してください。

原口議員。

○10番（原口康之君）

少し地域性というか、旧榛原町からのずっと運営されてきた榛原学園の川崎幼稚園ということで、私は旧相良町のはじめのほうですから、その地域性のことはよく分からないんですけど、地域の中で本当に実際に通っていて、何人も卒園生というか、そういうふうに関わって地域でやってきた部分もあると思うものですから。それで、卒園された方なんかは何も問題なく卒園されたという方も当然いて、その人たちが同じように声を上げているのかどうかという部分も私、本当に考慮しないと、火に油を注ぐような問題になってしまって、收拾がつかなくなると私は思うんですけど、その辺を考えると、ある程度、先ほど濱崎議員の市の責任の件ですけど、市にも大きな責任があるって、この大きなところは省いて、責任はあると思うんですよ。認定を与える上で、県に認定と承認しているのということを考えて、それは当然責任はあると思うんですけど、大きな責任があるかどうかというところまでは、地域性を考えると、私は入れたらいいか

どうかというのは、もちろん考慮した上で、私は入れないほうが、大きな責任じゃなくて、責任はあると思うので、責任までは入れていいと思いますけど、大きな責任というところは省いてもいいのかなと、私は考えます。

○議長（植田博巳君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

今、これを読んでいって、原口議員がおっしゃったように、市の責任云々ということよりも、これをどうするかというのは、3番のことも「私立こども園で発生した事故であるが、市民の市に対する不信感を払拭するため、正確な情報発信を行い、信頼の回復に務めること」と書いてございますが、本来あるべき仕事って、民間であっても絶対事故は起こさないって、これ当たり前のことなんですね。だけれども起こってしまったということに関しては、情報発信を行うことよりも、先ほど原口議員がおっしゃったように、全市、牧之原市として、二度と合わない体制づくりに徹するというような形にしないと、情報発信をもらうというよりも、起こってしまったことに対してオール牧之原として、絶対起こさない体制の意思のところを強く入れていただいたほうが、対外的に情報発信をしてというのは、それは僕らに聞かれたら答えるじゃなくて、本来あるべき姿は、起こってしまったのは事実ですから、それに対して絶対起こさないよという体制づくりということにこだわっていったほうが、それを要請するような形のほうがいいんじゃないかなと、3番のところは私は弱く感じるんですが、いかがでしょうか。

○議長（植田博巳君）

谷口議員。

○2番（谷口恵世君）

濱崎議員がおっしゃったように、牧之原市に大きな責任がというか、今、市民の方からは、この川崎幼稚園自体が市が運営しているじゃないかという、そういう勘違いもかなりありまして、正確な情報発信というのが、本当にできていないと思います。さらにここに、牧之原市に大きな責任がありという文言だけだと、本当にここは牧之原市が運営していたのかという誤解も招きかねないと思いますので、ただ、牧之原市に責任がないかという、そうではなくて、現在、指定管理2園持っておりますので、その2園持っている榛原学園が今回起こしてしまった事故ということですので、なので指定管理園、2園持っている牧之原市にもやはり責任はあるということですので。

ただ、大きな責任がありという文言だと、本当に正確な情報ではまたなくなってしまうような気がしますので、その点はちょっと注意したほうがいいかと思います。

○議長（植田博巳君）

今、意見をお伺いしましたけれども、責任という文言は皆さん入れるということですか。

石山議員。

○1番（石山和生君）

責任というのを書かないイコール責任がないと言っているわけではないですよ。まずその確認なんですけど。責任があるとあえて書くということは、結構今、大きなつく、つかないということよりも、今、谷口議員が言ったようなことを引き起こしかねない、書いていないということは責任がないと言っていることではないですよ。

ということを見ると、そこもちょっとまだ議論の余地があるんじゃないかなと思うんですけども。

○議長（植田博巳君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

時間が結構たっている中で、いろいろな情報の中で盛り上がってしまっている中で、市の責任という部分がかかり言われているんですね。それがだんだん議会のほうにも飛び火してきているという状況になってきているので、議会として市をこのままでよしとしているのかという、そんな雰囲気になってきているものですから、議会として責任という部分は問いていかないといけないのかなと。それに関しては、文章でしっかりと示していかないと、この部分で弱いとつつかれてしまうと思うものですから、私は責任ということを、先ほど大きな責任と言いましたけれども、ここに関しては例えば、皆さんのお話を聞いて中で、大きなというのを外してもいいですけども、責任という言葉はどこかに入れていただきたいなというところです。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

皆さんで議論した結果、そうなるならば僕は全然構わないですということと、議会の責任に関しては、これは行政に伝えるものなので、書かないという認識でいいのでしょうか。

○議長（植田博巳君）

現実に今、川崎幼稚園の、私立川崎幼稚園の事故について、やはり園児と市内の全ての子供たちにもそういった再発されては困るということで、市議会として再発防止ということで、市議会の意思表示として出したいなというふうに考えて提案させていただいたんですけども。

ですから、先ほどから言っている、責任というのが、評論家とかいろいろなあれというのは、現場のそういう実態、私立で市がどう関わっているかというのを、全て皆さん分かっている評価しているのか知りません。ただ、我々議会としては、そういう運営形態も分かった中で、どういう責任を表現したらいいのかなというふうに思うんですけども。

石山議員。

○1番（石山和生君）

先ほどの尾木ママさんのケースですが、今見ていますけれども、まずウェブメディアが東スポという、明石市の市長とかも言っていますけど、東スポは東スポブランドといって、あまり本気で解釈してはいけないと言っている人もいるようなメディアだということと、あと牧之原市の認

定こども園とやっぱり書いてある。これだけ見たときに、牧之原市が認定しているというふうに読めそうだと。だから、尾木ママさんが単純に牧之原市が認定しているところだと思って発言した可能性もあるんじゃないか。そこは分からないので、まず断定をすべきじゃないんじゃないかというのが、僕の立ち位置です。

抽象的に、これを議会としてちゃんと前向きに捉えていくという意思表示をするための要望書なんだとすると、抽象度が高くていいんじゃないかと。具体的にもっと詰めた上で、僕は条例改正だってすべきだと思うし、そのくらい議会としてしっかりと、行政は今、緊迫した本当にこなさなきゃいけないことがたくさんある中で、長期的に解決していくために何ができるかというのは、それこそ議会が特別委員会なり何なりつくって、予算をつけて調査して、条例改正でも何でもしていくとか、今回は意思表示としてすごい抽象的なものを出して、具体的なものは後でしっかりと、ちゃんとやった上で出すという、僕としてはそういう考えなので、あまり断定しないほうがいいんじゃないかと僕は考えます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

すみません、さっき私は例として尾木ママの件を出して、今、石山議員が調べてくれて、確かに東スポ自体がそういう感じの情報誌だということは、私も何となく分かりますけど、ただ、私が言ったのは、尾木ママの記事にあった、園としてやらなければいけないことに配慮ができない、それが責任だという、そのことが書かれていると思うんです。それはまさにそうなんです。この間も市長は、川崎幼稚園は市がやっているところだと勘違いされているということできりに言って、市の責任を少し和らげようという多分、あったかもしれないですけど、私はそんなことではないよと。

要は、先ほども言ったように、川崎幼稚園の保育の状況を、ちゃんと選定委員も審査して、議会もそれを認めて、それで指定管理者を選定した。それで、平成22年に静波、平成25年に細江、平成28年に坂部。全て榛原学園を市が指定管理者として選定委員会が選定して出してきたんです。だから、その選んだ責任のことを、大きな責任というのは、そういうふうに私は感じているんです。

だから、これからそっちの方向へ当然向かっていくというのが、私の今思っている感想です。だから、尾木ママが言っていることが絶対だという、絶対的な情報をもって言っているということではないんですけれども、書かれていたコメントがまさにそのとおりだというのは、私も同調したということです。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

議論というか、このままぱっと出さって結構危険だなと思っているのと、そもそも責任につい

て、今調査しているんじゃないですかという。どこに何が、どういう問題があって、なぜこれが起きたかというのをやっていって、多分明確にここが悪かったとかって責任問題とかって、今の今言うって早計じゃないかなと。別に責任がないなんて思っていないですよ、僕はないなんて思っていないくて、むしろちゃんとやらなきゃいけないと思っていますけど、あえてここに書くというのは、皆さんが一致すれば僕は何も反論はないです。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

今、皆さんの話を聞いていくと、責任、責任ということを言われていますけれども、この要請書を出すに当たって、そういうことを言うなら、市の責任ということを盛んに言っていますけれども、牧之原市議会の責任はということになったときに、牧之原市はこういう責任を負いますから、市もこういう責任を負ってねという形になりかねない。そうなってくると、さっき私が言った、ある記者からそういう話があったように、市議会として法的拘束力がある百条委員会の設置等々そこまで踏み込んだ話になってしまうと、市議会としても百条委員会を設置しますから、市もそれなりの責任を取ってねというような話にしていかないと、市議会はそういう要請するだけかねという話になってしまいますよ。責任、責任とそこまで言って。

○議長（植田博巳君）

いいですか。

この要請書というのは、文面は前段を全部読んでいただければと思います。

今、合同の特別監査をやったり、警察も捜査していると。この時点で、今、保護者も困っている、そういうことなので、それを何とか園児さんをスムーズに、また今在園している子だって、年長児はそこですごしたいとか、友達と離れたくないとか、いっぱい現実として課題があるんです。そういう中を速やかにやってもらいたいというのが、この緊急というか、ちょっと遅いと言われるのかもしれませんが、早めにそういうことが解決するように要請したいという意味でつくってあるんです。

だから、それに対して、いろいろな形で大きな責任とか、そういうもの。市としては、子供を守るための幼児教育をやっているんで、公私問わず、市としての子供を守る責任というか、書くんだったら守る責任に鑑みちゃんとやってくださいとか、そういうようなトーンでないと、責任が大きな責任とか、指定管理がどう、それは先の話だと思うんですよ。現実には、現状の喫緊の課題に対してちゃんとやっていただきたいというだけの、短期的な要請書というふうに私は考えたんですけど、中長期まで含めると、今みたいないろいろな形になると思うんですけど、そこら辺は皆さんの意見を聞いて、どうするかということなんですけど。

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

そうすると、2番目の文面なんですけど、市に要請というところで要請書ということで出すと

ということで、調査、検証を行うだけではなくて、その後に指導とか、そういうところをつけてもらって、本当に動いていってもらいたいよというところを出していただければなと思いました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

昨日よりもよっぽど踏み込んだ文面になっているというふうに思います。私はこの要請書を出して、そして市も検証委員会というのをこれからやるというふうに言っています。その検証委員会を正確に牧之原市議会がきちんとして情報をいただく中で、今、皆さんがおっしゃっていたようなことを言っていけば、私はいいのではないかとというふうに思いますので、これで出させていただきたいなというふうに、昨日議運のほうで決めた形でやっていったらよろしいのではないかとというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

私もそう思いますし、だから、あまり責任がどうのこうかと言っていると、最終的には、さっきも言ったように、議会の責任はどんなのとなってしまうから、今はこの要請書を出して、さっき議長が言われたように、今の時点での議会としての要請書を出しておいて、口頭で言う部分は、ある程度それなりに補足すると。

当面今は、議会としてこれを出すということが必要だと私は思いますよ。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

大井議員が一生懸命責任のことを言っていますが、我々議会って、行政監視なんですよ。だから当然行政に対して厳しいことを指摘して、それでことが起こらないようにするのが我々の仕事で、言ったから我々の責任ということは、これは議会はないはずで、その部分は。

だから、そうならないように正すのが議会だから、きつく言うときには、そのことは私はあまり気にしないようにやっていったほうがいいと思います。

それと昨日の議運の内容でちょっと補足させてもらいたいんですけども、昨日の議運で協議したというのは、先ほど来、出ている案について見て、これでは正直少し弱いと出て、それでこんな感じにしてもらったんですけど、その中でたしか私も発言させてもらったんですけど、それはそれで要請書を出すことは、それはいいんですけども、これだけの問題について、議員全員で今後何をしていくかということもちゃんとやってくださいと私言ったはずなんですけどね、そのことは先ほど来、お話ししていないものですから、それが結局、いろいろな提案がありますけど、それはまた、これとはまた別で皆さんの意見を聞いて、この議会として何をやるかというこ

とを意見してもらったらどうですかね。

だから、これはこれでというのをちゃんと決めないと前に進まないような気がしますけど。

○議長（植田博巳君）

村田副議長。

○15番（村田博英君）

先ほど来、出ていますが、中野議員が言うように、これはこれでまたちょっと直して出してもらって、直さなくていいか。

○13番（中野康子君）

そんなこと言っていないですよ。

○15番（村田博英君）

いやいや何か一言加えてとか、いろいろあったからさ。具体的にあったからね。

それでは、このまま出させてもらって、今、検証委員会とか、県からの監査とか、市からの監査と一緒にやっていますから、この要請文と併せて結果を見て、本当にやられているかどうかで、そういう報告を受けるようにして、そしてそれが皆さんの前で臨時の議運か何かで説明してもらって、それがうまくいってなければ、そこでまたチェックしていくと。そして注視していくという形でどうですかね。

○議長（植田博巳君）

加藤議員。

○5番（加藤 彰君）

まず、議運で検討されて本日案が出たよということ、まず大ベースにして、その上で議長のほうから、少し全員の意見をというお話だったものですから、その意味で、この文面に対して少し気になることを言わせてもらいたいと思います。

二つ目の2行目の調査、検証で、絹村議員もおっしゃいましたが、「調査、検証、さらには改善策を策定すること」とかですね。それは私の意見として。

それから3番目の、「私立こども園で発生した事故ではあるが」というのは分かるんですけども、これはなくてもいいかなと。

ただ、次の「市民の市に対する不信感を払拭するため、正確な情報発信を行うなど、各種適切な取組を行い、信頼の回復に務めること」というようなことで、要は議会としてちゃんと市がやったことを、議会としてさらに監視するというか、チェックするというか、それが議会の役割だというふうに思ったときに、市にやってもらわなければならないことをしっかり書いておいてもらいたいというふうに思います。

それと、調査、検証というのは当然やるとしても、その検証を踏まえた上でどうするかというのは示してほしいなと。ですので、その改善策がすぐ出てくるかは分かりませんが、途中のものなのか案なのか分かりませんが、それに対して議会としてちゃんと意見を言うべきじゃないかなと思います。

不信感を払拭するのは正確な情報発信だと思います。思いますけれども、やはり各種いろんな適切な取組を行うということの上で、正確な情報発信にもつながってくるというふうに考えましたので、この場がそういうご意見を言っているいい場であるならば、そういうふうに思いました。

それから、最後の、これは私字が分からないものですから、「回復に務める」の「務める」はこれでよろしいんですか。すみません、私字がちょっとよく分からなかったものですから。

なので、一応そういうことを、これでは思いました。

○議長（植田博巳君）

今、加藤議員からありましたけれども、検証と改善策、どういうふうな文脈で入れるかあれなんですけれども。改善策というのは、検証が終わってからの流れなので、この要請書の時系列的な中でいくと、入れてもいいのかなとは思いますが。

木村議員。

○6番（木村正利君）

文面とか、皆さんのご意見、私も加藤議員と同じような気持ちですが、ちょっとご理解いただきたいのは、昨日、議会運営委員会の中でいろいろなことが図られて、私たち新人議員というか、入っていないメンバーは今日初めてこれを見るわけですね。だから、ある程度いろんな議論された後のいろいろな議論というのは出てきてしかるべきだなというご解釈で言っていたかかないと、僕らも昨日こうしてこうなってまとめてきてこうだよねというのを言われて、自分たちの思いついて皆さん同じだと思うので、全員協議会なので、その辺の間も、できればこれから、いろいろな意味で、そういう解釈で取っていただければありがたいかなと思います。

議会運営委員会で議論された経緯って、私ども全然分かりませんし、持っている思いは同じなので、ちょっとそこら辺もまた、よろしく願いできればなど。

○議長（植田博巳君）

先ほど来、議運の委員長から説明があったとおりなんですけれども、原案をもうちょっと強い意思の中で修正したらどうですかというご意見があったので、原文も内容の前段はほとんど変わらないんですけど、具体的に強めに表現されているという状況で、今日皆さんに見てもらって、文脈から文面から見ていただこうということで開いて、その中の協議を最終的に決まったら、そのもので提出したいという意思で、今日全協を開いているということですから、ご理解ください。

そうすると、今、加藤議員から意見がございましたけれども、改善策の話と、私立こども園はいらないとかいうお話がありましたけど、私はやはり先ほどの、市立とか私立とかいうあれがはっきりしない状態で動いていますので、これは私立こども園で発生した事故ではあるが、けれどもやっぱり市としては子供たちを守る行政としての責務に鑑み、信頼回復をするとか、そういうような形で文面を書いてありますので、これは入れていただいてもいいのかなと思います。

改善策については、皆さんどう思いますか。

石山議員。

○1番（石山和生君）

これは具体的にということですか、それとも改善策をつくる上で。

○議長（植田博巳君）

文面として。

○1番（石山和生君）

入れていいと思います。

○議長（植田博巳君）

皆さん、どうですか。

ただ、入れるとなると、「調査、検証を行い、改善策を」。

加藤議員。

○5番（加藤 彰君）

単純に「調査、検証、改善策を策定すること」とかということ。多分、調査、検証も短時間では行えないというふうに思います。策定をするといっても改善策をすぐにできるとは思いません。思いませんが、そういったものをつくってくれと、これは議会から市長に対して今言うこととして、それはつくってくれと。そのつくってもらったものについて、議会としてもちゃんとこれでいいのかという見るというのが大事じゃないかなというふうに思います。

○議長（植田博巳君）

改善策を入れるとなると、全ての園ですね、公私、国公立問わずということですね。後ろのほうまで下がってくるので。

木村議員。

○6番（木村正利君）

補足ですけど、いろいろネットで見ると、起こってしまったことに対しての、例えば後ろに行って、アメリカなんかは検証してそういう機械を入れるとか、いろいろな改善策って、当然今、起こってしまったことに対しての改善策は必要ですので、加藤議員がおっしゃられた文面を入れていただければ、それを全体としてチェックができるかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

では、事務局、すみません、改善という言葉。

中野議員、どうぞ。

○13番（中野康子君）

確かに改善策は必要だというふうに思います。でも、この後の文章を見ると、やはり私立、公立問わず、市内全ての幼稚園の検証からあれからやっていくとなると大変だろうから、それは検証委員会があるので、検証委員会をきちんと議会のほうに説明をそのたびにさせていただいた中で、皆さんが意見をすごく言っていくというふうな形のほうがちょっといいかなと思ったんですけど、いかがでしょうか。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

私も、先ほど言われたとおり、その部分は口頭でいいのかなと。口頭できちんと結果を報告して、改善策というものをきちんとつくって提出してくださいということをきちんと伝えればよくて、今、最初議長が言った部分でいうと、今一番大切なのは行かずに困っているというか、子供たちと保護者が一番困っているという部分で一等先、ここ挙げていると思いますから、その部分を強く言うために、文面はこのままだでもよくて、口頭でその部分を議長のほうがきちんと伝えてくれればいいのかなと考えます。

○議長（植田博巳君）

今、中野議員、原口議員からお話がありました。

今、合同監査、特別監査をやっています。警察の捜査はあまりあれなのかもしれないですけども、監査、あと検証委員会も立ち上げるということですので、その辺の経過を見た中で改善策については、持ってくるときに、改善策もしっかり整えて、また議会のほうに提出していただきたいとかいう申入れをするということはどうですか、いかがですか。

文面としてはこのままということで了解していただけるか、やはりどうしてもここへ入れたいとか、その辺のご意見をお伺いしたいと思いますけど。

〔「なし」と言う者あり〕

ないようですので、この原文のままいかせていただいてよろしいですか。皆さんからもらった意見について、これを市長に渡すときに、口頭では申し上げますけれども、そういうことでよろしいかどうか。

松下議員。

○7番（松下定弘君）

確認をお願いします。このものは市長に提出するわけですよ。ですので、外向けに発信というのは、ないんですかね。

○議長（植田博巳君）

市長に渡してからはホームページに載ります。

○7番（松下定弘君）

報道に入れる。

私も今さらに申し訳ないんですけど、3番目の私立こども園で発生した事故ではあるがという文面は、自分としての個人の意見としては、うちじゃないんだけどねというような言い方をしているような感じで。

○議長（植田博巳君）

逃げているような感じ。

○7番（松下定弘君）

ちょっと自分としては、かえってそれでは、見た人、当事者の人たちには逆撫でする形になる

かなという感じがしました。

○議長（植田博巳君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

先ほどの調査、検証の後の改善策のところ、私は入れたほうがいいと思っております。

検証委員会というのは立ち上がると言っていますが、検証委員会は検証委員会でそれはそれでということ、こちらはこちらで改善策というのをちゃんとやっていて、見ていく必要があるのかなと思ひまして、入れたほうがいいんじゃないかなと思ひます。

私の意見です。

○議長（植田博巳君）

意見が分かれておりますけれども、何が一番ベターなのか、今の現時点で提出するときに。

改善策というのは入れない中であっても、口頭で申入れしますよということなんですけど、口頭で申入れをするんだったら書いておけよというところなのかもしれませんけれども、どうですかね。

村田議員。

○15番（村田博英君）

今のくだりであれですけれども、2番目に「学校法人榛原学園が運営している、静波保育園、細江保育園、子育て支援センター「みらいえ」の安全管理について」、事故があると必ず原因を調べて、原因を調べてから改善という、原因が分からないうちに改善はあり得ないので、そういうこと、この名前が出ていますから、「また、私立、公立問わず」ということの中に、さっきも言った改善は今から、原因が分かり次第改善が出てくるはずですから、そういう意味合いで捉えてみれば、これでいいんじゃないかなと私は思ひますけどね。

○議長（植田博巳君）

あと、3番の「私立こども園で発生した事故ではあるが」って、これは言い訳みたいな、そういうふうに捉われるということで松下議員からお話がありましたけど、これについて、どうですか。

原口議員。

○10番（原口康之君）

市内には、私立じゃなくて市立のこども園もあるものですから、そこははっきりさせておいたほうがいいのかなという意味で、「私立こども園」ということで、私はこれでいいのかなと考えます。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

それこそ今、ずっと皆さんいろいろな意見を出されて、なかなか落とし場所ってないと思うん

です。だから、正副議長の判断でやっていただければと思います。

○議長（植田博巳君）

村田議員。

○15番（村田博英君）

ほかの幼稚園とか保育園で巻き添えを食ってしまったというか、そこもあるんで、ちょっとそういう意味もは区分けを。名前も載っているからあれなんですけどね。どうでしょうかね。

○議長（植田博巳君）

副議長もそういうお話ですので。

いろいろ意見がございましたけれども、まとめさせていただきます。

3番についても、「務める」というのは字が違うとかいう話がありますけれども、それは修正させていただいて、「私立こども園で発生した」というのは、そのまま存続させていただくと。2番目の改善というのも、口頭で入れるということで、このままと、原文のままいかせていただければと思いますけれども、皆さんのご同意をいただきたいなと思いますけど、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

ありがとうございます。

これは、速やかに提出させていただきます。調整していただいて。

○事務局長（原口 亨君）

提出日については調整させていただいて、なるべく早いほうがいいと思いますが、市長のスケジュールとか、あとマスコミの関係もあるので、少し調整させていただいて、なるべく早い時期に渡していただくように調整します。

○議長（植田博巳君）

では、この件について終わります。

3 その他

○議長（植田博巳君）

次に、その他でありますけれども、一般質問お疲れさまでございました。一般質問の登壇したときに、時候の挨拶等々、前回申し合わせしたとおり、しないということでありましたけれども、今回の一般質問で、ああいう事件があったと、事故があったということで、お気持ちは分かるんですけれども、そういう決めたことですので、今後、そういったものは前段の説明はなしということで、認識を皆さんしていただきたいなと思います。

それから、今朝の新聞に昨日の通告外ということで記事が載りました。一般の市民は、あれを見る限り、止めたほうが悪いというような感覚も持たれているようなことをお聞きしております。

通告外というのは、議員にとって基本的なことでありまして、交通ルールの基本的なところと同じということですので、今日も最初の質問者の前には、通告にそれることのないようにと毎回

日にちの前には申し上げております。今まで、檀上での通告って私経験がございません。申し訳ない。

再質問の中で通告外と言われたケースは耳にしていますし、ありますけれども、その辺も注意しながら一般質問でしていただきたいと思いますので、私からはそれだけお願いをしたいと思います。

○15番（村田博英君）

すみません。申し添えますが、議長が議長席で、9月5日の事故につきまして、誠にご本人のご冥福をお祈りしたいと思っておりますと言っていますからね、それが一つ。

それから、皆さんも登壇したら、通告に従いと言いますでしょう。そう言うおいて通告外のことを言うてしまうのはあれですよ。ということですから、よろしく願います。

○議長（植田博巳君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

昨日の一般質問のほうで通告外の質問をしてしまいまして、今日、朝、植田議長とお話させていただいて、十分これから気をつけてやっていきますので、誠に申し訳ありませんでした。心配かけて、とにかく、今後、またよろしく願います。

○議長（植田博巳君）

今の話は全体に言ったものですから。

わざわざありがとうございます。

その他。

願います。

○事務局次長（本杉裕之君）

一つお知らせなんですけれども、明日、第2回の学校用地候補地選定委員会で出席される方、欠席される方、いらっしゃるんですけれども、当初の予定では、1時から2時半まで榛原地区の委員の説明を受けて、休憩を挟んで委員の入れ替わりをして、相良地区の委員会のほうを3時から4時半までという予定でいたんですけれども、当局側のほうから、明日は榛原地区の委員会のみを開催するというので、相良地区の開催はまた日を改めて開催を皆さんにお知らせするという事です。

そのことについての通知を状差しに入れてあります。ですので、明日出席を予定されている議員さんにつきましては、2時半で会議が終わるような形になると思いますので、お知らせしておきます。よろしく願います。

○議長（植田博巳君）

ほかにはないようですので、これで臨時の議員全員協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

[午後 3時57分 閉会]